

26. 長山（永山）城跡・日吉山王神社・金刀比羅神社・かすみの郷公園

(1) 長山（永山）城跡

長山城は、行方忠幹六世の孫で小高幹平の次子知幹が、現在の永山の地を領し築城しましたことに始まります。鎌倉時代の後期で知幹が長山氏の祖となりました。

10代幹綱の時、大永2年（1522年）に隣接する島崎利幹によって攻められ落城するまで二百数十年続きました。

本丸跡・二の丸跡・土塁跡・濠跡・柵形跡等の遺構が見事に残され、令和4年に潮来市指定文化財になりました。東西約180m、南北約50m（本丸、二の丸）の小さな城に大型の城並みの諸施設を取り入れた中世城館遺構として貴重な存在です。

現在も城跡の周辺には城山、根古屋、門前、寺台、弓内、浜弓場等の関係地名を多く残すとともに落城等に際しての言い伝えも語り継がれています。

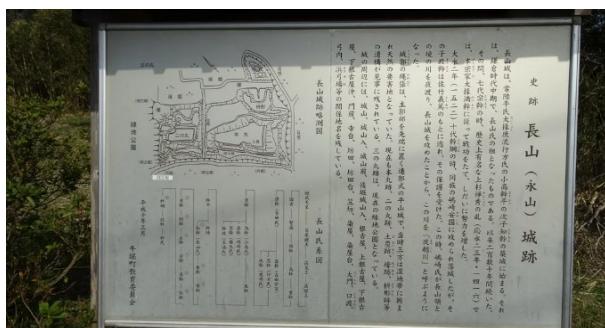
（広報いたこ vol. 263 2023年2月号より）



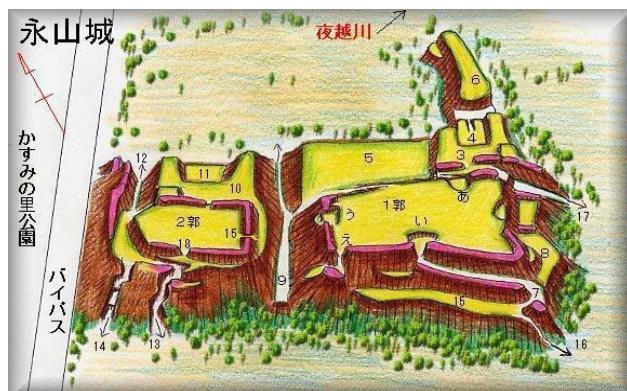
石碑と碑文



濠跡



説明版



長山城跡絵図

(2) 日吉山王神社

祭神：大山咋命（おおやまくいのみこと）

創建年代は不祥ですが、和銅6年（713年）に編纂された『常陸風土記』に「香澄の里あり東の山に社あり」と記されているのが永山の日吉山王神社です。

鎌倉時代中期桓武平氏の流れをくむ長山知幹が永山（長山）に築城するにあたり、牛堀北西部境より現在の地に移転され、その後長山城主が10代氏神として尊崇した神社とされています。以前は「日吉」「山王」「三熊」三社の神社が相殿であり、大山守の須田氏が牛堀に移転する時に三熊神社を割譲したので、現在は日吉山王神社と三熊野神社の二社となっています。

この神社境内全域は県の緑地環境保全地域及び市の天然記念物（日吉山王神社の森）に指定され、大般若經は市の有形文化財（日吉山王神社の大般若經）に指定されています。



拝殿



本殿

(3) 金刀比羅神社

祭神：大物主命、金山彦命

創立年代不詳、安永7年（1778年）春南総の村人、疫病除けの小太刀（豊年神）を持って村々を巡り、新島村三島（現香取市三島）より香澄村に担ぎ込まれ鎮座した処「讃州金刀比羅大神」と神告あり、参詣人次第に増加し海上安全、豊漁に靈験著しくこれを聞いて鹿島灘の漁民をはじめ、遠く銚子方面や霞ヶ浦沿岸から群集しました。当社は霞ヶ浦を一望できる絶景の高地（海拔27m）にあり、霞ヶ浦と関わりが深く周辺の人々に広く信仰の対象がありました。



拝殿



本殿

(4) かすみの郷公園

周辺を田園に囲まれた高台に約10ヘクタールの森がひろがっています。

園内は芝生のサッカー場と野球場（2面）のほか、「レクリエーションの森」や「体験の森」、「収穫の森」など7つのテーマにわかれています。



54

